

# MANY

## No.432



令和2年3月26日(毎月第2・4週配信)MANY(Morality Active Network of Youth)

モラロジー青年活動ネットワーク メールマガジン

### From 青年育成課

今年度をもって青年育成課の浜島直隆は異動になり、4月から新体制となります。

お世話になりました読者の皆様に浜島よりご挨拶を申し上げます。



平成25年から7年間にわたり、青年担当をさせていただきました。全国の皆様には大変、お世話になりました。

青年育成に携わることができた7年間は、全国の同志たちとともに同じ方向を向きながら歩むことができた、私の人生において何にも替え難い、至福の時間でした。

4月からは総務部に異動となります。今度は別の形で皆様の青年活動をサポートさせていただきます。

皆様、お世話になりました！ またお会いできますことを楽しみにしています！（浜島直隆）

## 『Fukushima50』 絶賛上映中！！

『Fukushima50』は門田隆将著のノンフィクション書籍『死の淵を見た男 吉田昌郎と福島第一原発』を原作に、福島第一原子力発電所事故発生時に発電所に留まり対応業務に従事した、約50名の作業員たちの闘いを描いた映画です。

+++++

紙面で振り返る『Fukushima 50』福島民友新聞

<http://www.minyu-media.com/fukushima50/>



東日本大震災と福島第一原発事故は、直後から福島民友新聞も連日大きく紙面を割いて報道した。震災からまもなく9年を迎え、ノンフィクション作家の門田隆将氏の作品『死の淵を見た男 吉田昌郎と福島第一原発』(角川文庫)が映画化された。

『Fukushima 50』(フクシマフィフティ)とは、「同発電所の事故が発生した後も残った約50名の作業員に対し欧米など日本国外のメディアが与えた呼称」だ。映画で主に描かれる事故直後の状況を当時の福島民友新聞の紙面から振り返る。

+++++

ぜひ、皆さんも映画館をご覧ください！

映画公式サイト

<https://www.fukushima50.jp/>

## キャンパスの桜が満開になりました！

今週に入り気温が上がってきました。昨日から学園内の桜たちが満開になりました。今年の桜は例年より一層綺麗です。どんな時でも美しい花を咲かせよう！と廣池博士の声が聞こえてきそうです。皆さんの地域ではいかがでしょうか？



## いよいよ家族のきずなキャンペーン 開催！

第15回家族のきずなキャンペーン(4/13～5/3)が始まります。  
今年は約全国で約300会場です。

コロナウイルスの影響もあり、キャンペーンの展開が困難かもしれませんが、必要な方に届けられるように各事務所で工夫し想いを伝えていきましょう！

開催された皆様からの活動の様子(写真)お待ちしております！



出雲事務所では家族ぐるみで(R01.4/27)

幸せへの心づかいを伝播させよう  
～今こそ新型コロナウイルスを凌駕する～

## 私たちが大切にすることは「心」

一昨日、衝撃的なニュースが流れました。

東京オリンピック・パラリンピックの延期決定です。史上初の延期をもたらした新型コロナウイルスが世界中を席捲しています。8月になっても収束できないのかと一瞬、気持ちが折れそうになりました。そんな誰もが抱えている不安の中で、私たちが困難を耐えて乗り越えていこうと決意し、努力しているのは、「必ずよくなる」と未来に希望をもっているからだと思います。

目の前の課題も、家庭、職場、地域社会の中と様々ですが、モラロジーに学ぶ私たち青年は、今

こそ安心と希望をつくる「心」の力を信じて育み、その輪を広げていきたいと思ひます。

## 日々の心づかいの大切さを伝えてきた小冊子

長年、家庭座談会や、グループ学習で使われてきた創刊50年のロングセラー『ニューモラル』です。今月のテーマは、「挨拶」の力。挨拶は人間関係の潤滑油的な役割を果たす、とても大切なものです。「そんなのわかってる」といいたい方もいると思ひますが。



では、その挨拶にどんな「心」を乗せて届けていますか？

「形」に「心」を込めることの大切さを気づかせてくれる冊子が『ニューモラル』です。

一人で読むだけでもよいですが、グループで読んで、話し合うことで、心の使い方をお互いに確認し、自分だけの感じ方・捉え方だけでなく、いろいろな見方を知り、今まで見えていなかった世界をみることができます。この心を普段の生活にこの心を使っていくと、いつもの自分と周りが変わっていく感覚を味わうことができます。<https://ecmoralogy.jp/product/873/>

## 「道徳は家庭から」を再確認する1冊

もう一つ紹介する冊子は、今年から誌上で「れいろうカレッジ」を開校し、より学びやすくなった『れいろう』です。こちらは『ニューモラル』を超える創刊60年の歴史があります。



今月のテーマは「この春、もっと幸せになる！」カレッジ長の先生と1年生のれいこさんと徳太郎君の3人の対話からスタートし、先輩の体験や、識者の寄稿、そ

して本の紹介コーナーと「もっと幸せになる」ために必要な視点を、読者を感動させながら教えてくれます。話し合いがしやすいように「誌上ゼミナール」もあって、こちらも一人で読むよりも、グループで学びながらより内容を深められる一冊です。

先月の3月号ではちょうど1年間に「高校生セミナー」で講演いただいた池間哲郎講師の奥様、池間理恵さんも登場し、感動の講義をもう一度思い出させてくれました。両誌とも、話し合い学習がしやすいように毎月発行している学習資料があります。ぜひご活用ください。

<https://ecmoralogy.jp/product/874/>

## 体験が「心」を育むある調査結果

国立青少年教育振興機構が行った青少年の体験活動等に関する意識調査では、自然・生活体験が豊富な子供も同様ですが、「お手伝いをよくする」子供ほど、自律性、積極性、協調性が身についているという結果がでており、またそれらが身につけている子供ほど、自己肯定感が高いことや道徳観・正義感が高い傾向があることがわかってきました。

さらに、「読書をすることが多い」子供ほど、コミュニケーションスキルや、礼儀・マナースキルが高い傾向にあり、子供と同様、子供の頃の読書活動が多い大人も未来志向や社会性などの意識・能力が高い傾向にあることが明らかになりました。

この調査結果によって、勉強熱心でグループ学習を得意分野とする長年のモラロジー活動は、私たちの「心」を育むのに大きな成果をもたらしてくれたのだと、大いに自信をもつことができました。

## 「幸せになる心づかい」を伝播させる

4月の『れいろう』に前野隆司（慶応大学院教授）氏が紹介した「心のエクササイズ」がとても参考になりましたので紹介します。

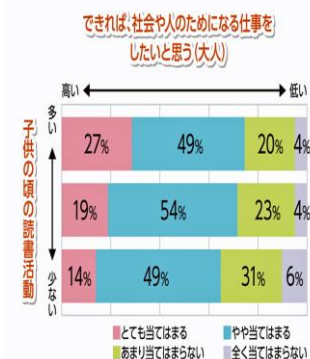
それは、感謝することを習慣化させる工夫です。ここでは、友人3人で SNS を活用して、寝る前にその日に感謝したことを3つ送りあうことが紹介されました。また、この感謝のエクササイズは親子ですることをおすすめしていました。

廣池博士が会員に向けたお言葉に「最高道徳の実行は、親子の間と夫婦の間とに於いて最も必要なるものにて、すべて一切この間より出発するものとす。」とあります。

青年の皆様、新型コロナウイルスに負けず、幸せになる心づかいを伝播していきましょう。外出自粛などで、お互い家にこもりがちになってしまいますが、こ

こは、未来への大切な投資の時間が舞い込んできたと考え、夫婦で、また子供と一緒に家族で、『ニューモラル』『れいろう』を活用して、家庭の中で対話によってうみだした幸せな気持ちを少しでも周りに届けていきませんか？

<青年育成課 森田智>



### 【お知らせ】

次号は、令和2年4月9日です

基本的に毎月第 2、4 週配信！

活動情報、ご意見、ご感想など声をお聞かせください。

MANY 事務局へ

**[発行・編集]**

公益財団法人モラロジー研究所 青年育成課

(<https://www.facebook.com/moralogy.many>)

住所:〒277-8654 千葉県柏市光ヶ丘 2-1-1

[TEL:04-7173-3312](tel:04-7173-3312) FAX:04-7173-3259

※掲載記事の無断での転載、再配布はお断りいたします。事務局までご一報ください。